

台湾旅行記

九州支部会員 佐賀在住

昨年（2015年）の暮れ、妻と台湾中部の鹿港という古い街を訪ねました。旅程についてはサーバスのS（名前の略、以後同じ記述）さんと相談をして決めました。

12月25日（金）朝の10時過ぎに福岡空港を立ち、現地時間で午後1時頃、桃園国際空港に到着しましたが、入境検査のために並ぶ旅行者の列が延々と続き、手続きを終えるのに30分以上も掛りました。それから荷物受け取りの回転台に行ってみると、今度は私たちのスーツケースがなかなか出てきません！あまりにも遅いのでカウンターに行き尋ねると「場所は間違っていない。」という答え。遂に別便の荷物が流れてきました！これは大変、ぐるりと回りを見渡して見ると、誰かが私たちの荷物を勝手に、または親切心から、近くに下ろしてくれていたのです。

それやこれやで漸く外に出ると、そこにSさんが待っていてくれました！それから急いでバスに乗り、高速鉄道桃園駅に到着すると台中までの切符を買いました。Sさんの話では65歳以上は半額だということでしたが、窓口では「それは台湾人対象です。」と言われ、がっかりして全額払う羽目になりました。

間もなく午後2時発の高速鉄道が出発するというのでSさんに別れを告げ、慌てて乗り込み、空いている席に座ると、隣の親切そうな紳士が私たちの切符をみて「あなた達は8号車ですよ。これは5号車ですから従っていらっしやい。」と言ってわざわざ8号車まで連れて行ってくれました。自分たちの席に座ってからよく見ると、高速鉄道はすべて指定席になっていました！

台中駅に到着したのが2時37分、改札を出るとHさんがにこにこ顔で出迎えてくれました。駅前にはもう一人、Tさんも待っていてくれました。Hさんは69歳、Tさんは59歳、ともに台中支部の役員です。Tさんの車に乗り込んで台中市内に入り、Amway社の喫茶ルームに立ち寄り、有機栽培コーヒーを飲みながらゆっくり時間を過ごしました。

午後5時過ぎに外へ出ると、Hさんの案内でアンティークのデンマーク家具を売る店を訪れました。Hさんの息子さんの友達が経営する店で、落ち着いた雰囲気、地下にも展示室があり、そこにはなんと草間弥生コーナーまでありました！版画が殆どでしたが、あの毒々しいまでの色使いの巨大作品とは一味違う、なかなか魅力的な作品で、すっかり見直しました。午後6時半、「東山黒白切」というレストランで夕食を取り、美味しいチャーハンを食べました。

その晩はHさんの家でホームステイする予定になっていたのですが、Hさんの仕事の都合でRさんご夫妻の家に案内されました。奥さんのRさんがサーバス会員です。ご主人のOさんは御年92歳、足が少し不自由ながら豊饒として頗る元気な方でした。日本語がとても堪能で、太平洋戦争では日本海軍の兵士として南方で戦い、その時に受けた額の疵がまだはっきりと残っている、と言って指で示されました。結局、Oさんの家で3泊することになり、すっかりお世話になりました。奥さんのRさんは60歳で、10年ほど前、Oさんを紹介され、互いに伴侶をなくした者同士の再婚だったそうです。

2日目午前10時、Tさんの自動車に私たちとCさんご夫妻が同乗し、台湾中部で最も有名な観光地である日月潭へ向かって出発しました。11時20分、日月潭の少し手前にある創業100年という老舗「東峰紅茶」に立ち寄り、PRビデオを観た後、ご自慢の紅茶を頂きました。12時過ぎに日月潭の文武廟に到着し、そこで30分ほど過ごしましたが、次から次に観光バス

がやって来ます。聞けば、すべて中国本土からのお客さんでした。日月潭を訪れる観光客は、その殆どが文武廟を見たら帰るのですが、私たちはTさんのお陰で広大な湖を一周することが出来ました。海拔760Mの高さにあるこの湖は周囲37km、幾つもの景勝地点があり、私たちはそれぞれの場所で下車し美しい景色を堪能しました。昼食は「大舌満」という道路沿いの店で取りましたが、味は名前負けしているように感じました！

日月潭を後にして西方に進路を取り午後4時頃、まるで桃源郷のような桃米村という集落到着し、小鳥の声を聞きながら散策を楽しみました。それからすぐ近くにある草南湿地にも行きました。4月から5月にかけてホテルの乱舞する名所だそうです。Cさんご夫妻が「1999年9月の大地震に見舞われた九份二山が近くにあります。行ってみませんか。」と言われたので、山深いその村を訪れることにしました。到着すると、崩壊した山肌の中に一見の傾いた平屋があり、誰でも中に入ることができるというので足を踏み入れた途端、歩きにくいことは勿論ですが何とも言えない悪寒を感じ、気分が悪くなりました。まるで「呪われた家」あるいは「悪魔の家」という言葉がぴったりくるような場所でした。聞けばその小さな村で14軒が崩壊し、41名の生命が失われたそうで、東日本大震災で被災した家の中にもこのようなものがあるかも知れない、と思ったことでした。

Cさんはサーバス会員として活動する一方地元の読書会にも入っていて、主として経済や時事問題について月2回勉強しており、読書会の会長であるLさんを紹介してくれました。LT会長は63歳、なかなか元気の良方で自動車修理会社を経営しておられ、私たちを夕食に招待して頂きました。「海陸仔」というレストランで、若いミュージシャンたちが生演奏をしており、私たちが入ると次から次に日本の歌を演奏してくれ、出る時にはチップをはずむ羽目となりました！

3日目は朝9時、Tさん、Hさんの他に、サーバス会員で若い女性のKさん、それにTsさんという年配の方まで見えました！TsさんはCさんの日本語の先生で84歳、豊饒として日本語の流暢なこと、正に目を見張るばかり。そればかりか、日本文化に関する該博な知識を身につけておられ、日本語で和歌まで詠まれる方で、私たちにその幾つかを見せて下さいました。「年長けて又も潜るか杉の戸を若きと学ぶ時ぞ楽しき」

人数が多いので2台の車に分乗して鹿港に向かいました。10時半頃文武廟に到着しました。神殿に向かって中央、右、左と3つの入り口があり、私たちが中央の入口から入ろうとすると蔡先生が、「文武廟では右手から入り左側から出るのがしきたりです。右が龍の口、左が虎の口です。中央は貴人のための入り口です。」と説明して下さいました。また、祭壇の前に多くの供物があるのを見てみると、蔡先生が再び次のような面白い話をされました。道教の神様は私たちが祈っただけでは願いを叶えてくれません。日本では神仏が祈りに応えて下さる、という信仰がありますが、中国の神様は現実的でうんと捧げ物をした者にだけ、その願いを叶えてくれるのです！

鹿港は台湾で2番目に古い小さな町で、歩いて探訪することができ、私たちも2時間近く歩いて回りました。文武廟の次に訪れたのが龍山寺、手を繋いでいないと迷子になってしまいそうな人混みでした。それから通りの両側に並んだアーケードの下をあるいていると肉まんを売る店がたくさん目につきました。鹿港は肉まんでも有名なのだそうです！「阿振肉包」という店の前に人垣ができており、Kさんが「とても有名な店です。」と言われるので列に並んで買い求め、その美味しい肉まんを賞味しました。次に向かったのが天后宮です。媽祖を祀った廟で色鮮やかな宮殿、ここもまた大勢の人々でごった返していました。天后宮のそばには牡蠣レストランが多く、鹿港は牡蠣でも有名だと聞き、それならという訳で牡蠣フライも賞味しました。天后宮の近くには「九曲巷」という有名な細長い商店街があり、私たちはどこまでも続く、人々でごった返す路地をきよろきよろしながら歩いて行きました。

2時間近くも鹿港を歩きまわって足が痛くなったころ、Tさんが迎えに来てくださり、Hさんの妹さんの嫁ぎ先である機械製作工場へ行きました。そこで美味しいコーヒーを頂いた後、近くにある海鮮レストランで夕食をご馳走になりました。

4日目の朝、Hさんが迎えに来てくださり、台中駅まで連れて行ってもらいました。9時31分の特急電車に乗り10時36分に台北駅に到着しました。Sさんが迎えに来てくれる筈でしたが、何分駅が広すぎてどこに待っておられるのか分からず、遂に案内所の方をお願いして携帯電話で連絡をとってもらい、ようやく会うことができました。それから都心部にあるタイ料理レストランに案内され、サーバス台湾のSe会長を始めハンガリー人会員の家族4名、南アフリカからの会員などを含めて全部で20人程の賑やかな昼食会となりました。

それから私たちはタクシーで空港に行き、午後6時ごろ離陸、日本時間の9時ごろ福岡空港に到着しました。台湾では気温18度ほどで快適でしたが、福岡空港の外に出ると7度、寒くて震え上がる程でした！

台湾は今回で4回目でしたが、サーバス旅行としては初めてでした。突然のホームステイを快諾していただいたRさんご夫妻、Tさん、Hさん、Cさんというシニア会員、それに若いKさんなどによるおもてなしに私たちは本当に感動し、サーバスの良さを改めて認識しました。